

小野ゼミの活動を終えて思うこと

第21期生 長谷川 萌々子

私は、この2年間で、「常に妥協せずに取り組むこと」を、多分、ほとんど初めて経験した。私は、昔からなのか、いつからかそうってしまったのか分からないが、本当にあらゆる物事に対するこだわりがあまりないし、おおざっぱだし、基本的に何も考えていない。「こうしないと絶対ダメ」とか、「完璧にしないと気が済まない」とか、そんな気持ちになったことが、記憶にある限り一度もない。周りの友達には、「絶対にテストでは1位を取らなきゃ!」とか、「この部分だけうまくいかないのがどうしても気に食わない!」とか考える子も結構いて、心から尊敬はしていたのだが、私は、どうしてもそんな風になれなくて、「1位も2位もほぼ同じだからまあいいか」とか、「まあ全体的にはうまくいったしオッケーかな」とか、常にそんな感じで物事をこなしてきた。小野ゼミに入る前は、そんな自分を「生きやすくていい性格しているなー」と思っていたのだが、小野ゼミで、常にハイクオリティーを求めて活動を行い、自分よりも何倍も思慮深い同期や先輩と接する中で、自分の浅はかさを心底情けないと感じたし、今まで私は、自分を悩ませるような面倒なことや疲れることからただ逃げてきただけなのかもしれない、だとしたら相当怠惰な人間なのかもしれない、と感じた。

こんなにも怠惰な自分が、なぜ小野ゼミに魅かれたのか、今でもよく分からないが、「絶対に小野ゼミに入る」と早いうちから決心し、多分、小野ゼミに対する熱意の強さだけで、小野ゼミに入会した。周りの友達に、「小野ゼミに入りたいと思っている」と言ったときには、「うそでしょ? 本気じゃないよね?」くらいの驚き方をされた。自分自身も、周りの人が驚くことや、反対することに対して、それなりの妥当性を感じていたのだが、それによって私の決意が揺らぐことは無かった。

人よりも格段に怠惰な私は、小野ゼミの活動が辛くなる時も結構あった。これまでの人生では、周りも自分も、私に甘かったが故に許されていたことが、小野ゼミでは許されなかった。ディベートや三田論では、私よりも、細かく深く考える同期や先輩に助けられてばかりだった。卒論では、私が自分に対して甘いせいで、同期にも、院生の方々にも、多くの手間をかけてしまったし、何より小野先生に多大なる苦勞をかけてしまった。こんなにも怠惰な人間が書く杜撰な文章を読むことによって、小野先生に大きなストレスを感じさせてしまった。それにもかかわらず、小野先生は、何度も添削をしてくださり、いかに私が、読者への配慮が足りていないのか、自分に甘いのか、ということに気付かせてくださった。気付くのが遅すぎて、本当にごめんなさい。

こんな風に小野ゼミの活動を振り返っていると、私は、周りの人たちに助けられてしかいなかった、ということを実感する。

これから先は、私の怠惰さを埋めてくれる同期もいないし、怠惰だということに気づかせてくれる先生もいないので、私は、自分で自分の怠惰さと向き合い、克服していかなければならない。小野ゼミでの2年間で、怠惰な自分を克服出来たら良かったのだが、20年間、怠惰な自分のまま、なんやかんやうまくやっ
ていてしまったが故に、怠惰な自分に気づくことはできたが、克服することはできなかった。小野ゼミを卒業し、小野ゼミでの活動を忘れてしまえば、きっとすぐに以前みたいに、怠惰な自分を肯定するような人に戻ってしまう気がする。だからこそ、小野ゼミで感じた、怠惰な自分に対する情けなさを忘れず、少しずつ怠惰な自分を克服していきたい。

これまで書いた文章を読むと、小野ゼミの活動を通して、私は、ただ自分の弱みを知り、反省しただけのように思えてしまうが、別にそういうわけではないし、そういう風にしたかったわけでもない。小野ゼミでの活動を通して、自分が具体的にどんなふう
に成長したのか、ということ、うまく言葉で表現できないが、多くの困難を同期と共に乗り越えた経験は、確実に自分を成長させたと思う。

最後に、小野ゼミでの活動を支えてくださった方々に、感謝の気持ちを述べさせていたきたい。小野先生は、お忙しい中、こんな自分を見捨てずに、最後までとことんご指導をしてくださりました。いつも愛のあるご指導をしてくださり、本当にありがとうございました。小野先生以上に、熱心に私のことを指導してくれる人は、これまでに
もいなかったし、きっとこの先もないと思います。院生の方々は、議論に行き詰まったときに、新しい視点をくださり、また、急な論文の添削のご依頼も、快く引き受けてくださりました。まとまりのない私の話も、親身になって聞き、理解してくださり、本当にありがとうございました。第20期生の先輩方は、昼夜問わず、第21期生のディベートや三田論の相談に乗ってくださりました。常に自分たちのことのように、一緒になって考えてくださり、本当にありがとうございました。第22期生の後輩たちは、至らない点ばかりなのに、先輩として頼ってくれました。小野ゼミに入り、一緒に全力で活動に取り組んでくれて、本当にありがとう。そして、第21期生の皆は、明らかに力になるよりも迷惑をかけてしまうことの方が多いのに、嫌な顔一つせず、同期の一員として、一緒にゼミ活動に取り組んでくれました。心の底からみんなのことを尊敬しているし、こんなにも優秀な同期に恵まれた自分は、本当に幸せ者だと感じています。小野ゼミに入らなかつたら、きっとこんな仲間には出会わなかつたらうな、と思うので、小野ゼミに入って本当に良かったと思っています。本当にありがとう。みんながもしよければ、これからもよろしくね！嫌だったら、強要はしません！



同期へ

私のビジュアルにたくさん写ってくれてありがとう！